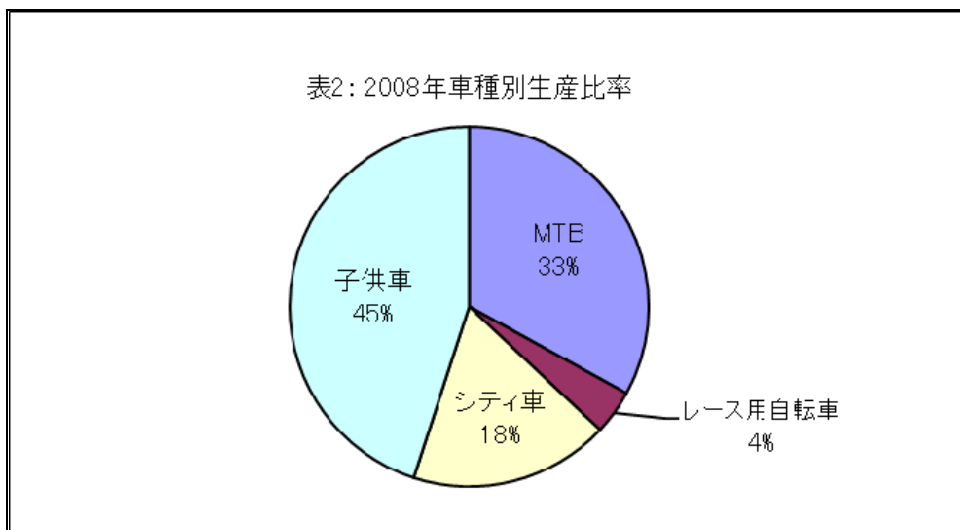
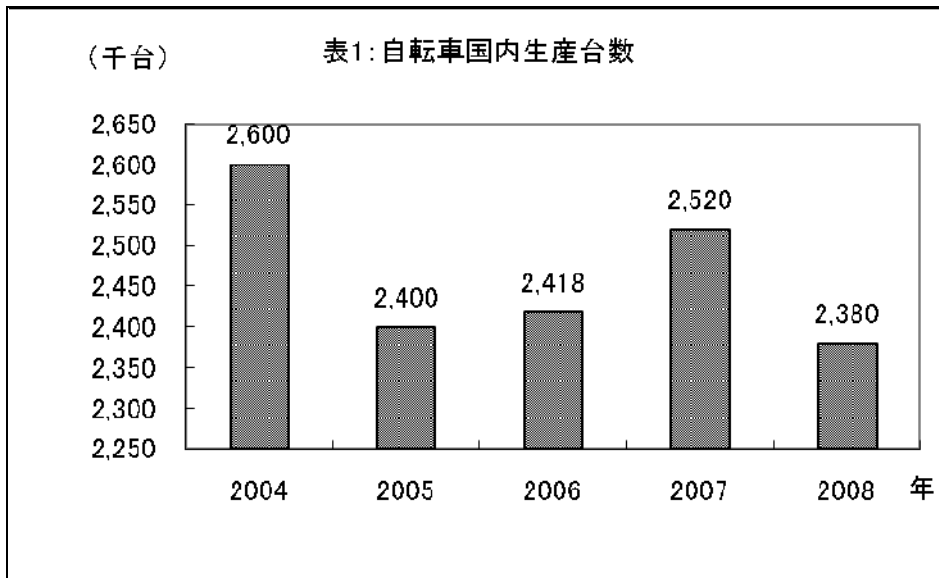


イタリア自転車市況－2008

1. 生産

ANCMA (イタリア二輪車工業会)によると、2008 年の国内生産台数は 238 万台で前年比約 5.6% 減と昨年増加した生産は再び落ち込んだ。特に 2008 年後半には経済不況の影響もあり、イタリア自転車産業界には厳しい結果となった。

車種別生産比率では、レース用自転車は昨年同様 4% であったが、MTB とシティ車はそれぞれ前年より 2% 減少した。一方で子供車は 45% と過半数近くに達しているが、子供車には車輪径 18 以下のものがすべて含まれており、昨年に引き続き、幼児向け玩具車の輸出増により同車種のシェアが増えているものと ANCMA は見ている。

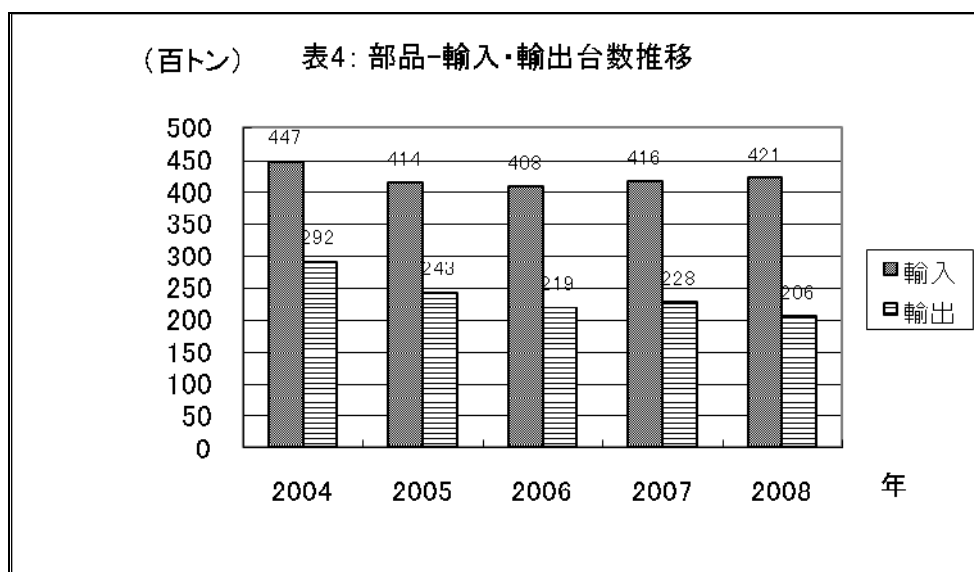
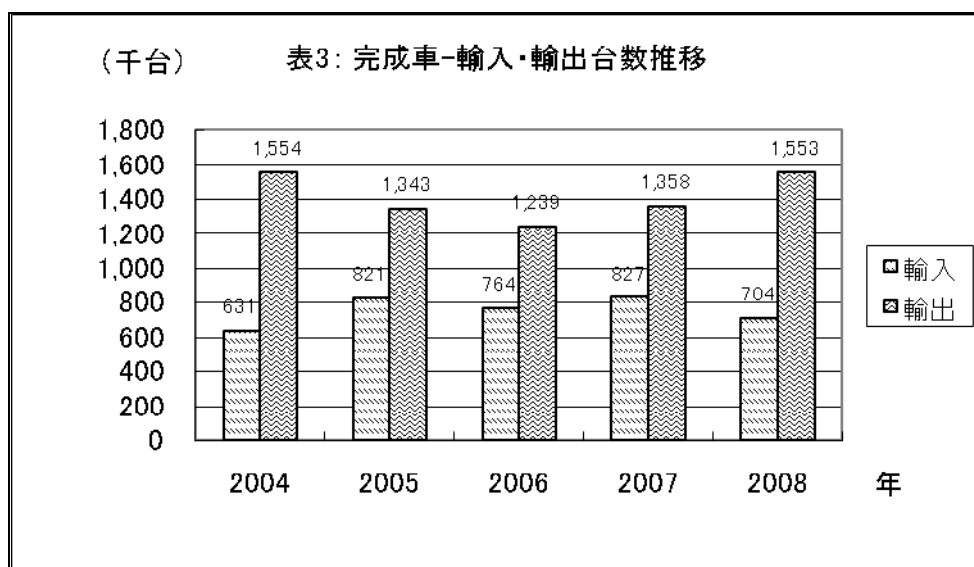


2. 輸出入

昨年増加した完成車輸出台数は前年比 14.4%増となったが、輸出平均単価は 2008 年には 80.71 ユーロ (10,815 円) と前年の 90.17 ユーロ (12,083 円) より下がっており、昨年同様、輸出は単価の安い幼児車が増えているものと思われる。地域別では全体の 96% は EU 諸国向けであった。

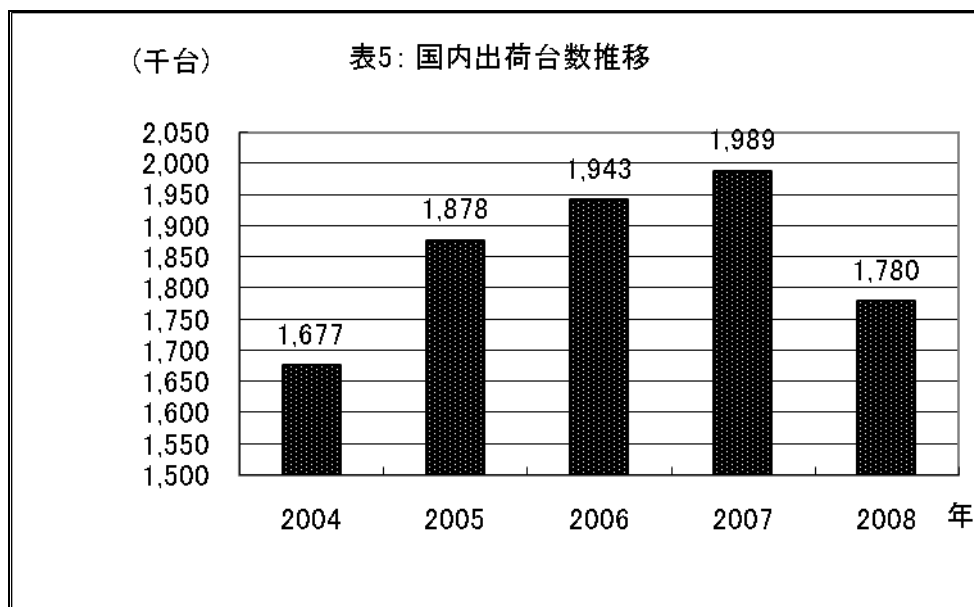
完成車輸入については、前年比 14.9%減と大幅に減少したが、輸入平均単価では 2008 年 111.54 ユーロ (14,946 円) と前年の 94.22 ユーロ (12,625 円) よりも上昇しており、輸出とは対照的な推移を見せた。地域別では EU 諸国 36%、その他が 64%となっている。

なお、自転車部品については、輸入は数量ベースでは前年比 1.3%増、金額ベースでは同比 3.3%増となったものの、輸出は数量では同比 9.7%減、金額では同比 6.8%減と不調に終わった。地域別では、輸出は EU 諸国 77%、その他欧州 9.4%と合せて 8割強を占め、ほか米国 5.5%などとなっている。輸入は中国の一カ国だけで 68.8%を占め、その他アジア諸国 20.7%と合わせ大半はアジア地域からの輸入である。



3. 販売

2008年販売台数は178万台と前年比10.5%もの減少となった。金額ベースでは同比18.9%減と更に減少幅が大きい。2008年は金融危機を発端とする経済不況の影響により自転車販売が落ち込んだものとANCMAでは見ている。それに伴い2008年の自転車販売店全業態の小売平均単価は前年比9.4%減の290ユーロ(38,860円)に下がった。しかしながら、車種別ではレース用自転車やトレッキング車の平均単価は依然堅調であり、また、量販店等で売られてきた50ユーロ(6,700円)程度の廉価なMTB類型車は次第に姿を消しつつあるとしている。



電動アシスト自転車については、2008年の販売台数は16,000台と昨年より4,000台減少した。平均単価は700ユーロ(93,800円)と昨年同様であったが、イタリアでは欧州北部のオランダやドイツなどのように電動アシスト車の人気に火がついた状態とは言い難く、安価な輸入車がいまだ多い状況となっている。

部品、付属品の売上額は前年より増加に転じた。特にロードレーサー向けを中心にスポーツ車用のサドル、タイヤや付属品などアフターマーケット向け商品が好調であった結果である。修理についても、部品や付属品の売り上げ増加に付随し、その機会が増したため売上金額は増加した。

表6: 伊市場売上金額 (単位:百万ユーロ)

| 年 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 前年比(%) |
|---------------|------|------|------|------|--------|
| 完成車(※電動自転車除く) | 580 | 602 | 636 | 516 | 81.13 |
| 電動自転車 | 10 | 11 | 14 | 11 | 78.57 |
| 部品・アクセサリ | 200 | 200 | 190 | 200 | 105.29 |
| 修理 | 25 | 25 | 25 | 28 | 112 |
| 合計 | 815 | 838 | 865 | 755 | 87.28 |

4. 今後の伊自転車産業界

イタリアでは今年9月の同時期に、パドバの自転車展(EXPOBICI)とANCMA主催でミラノにて新しい自転車展(ELCMA Bici)が開催されたが、イタリア自転車産業界にとって同時期に2つの展示会が競合開催されることは有益なことではなく、本年の両展の成否は今後の趨勢を知る上で大変注目に値する。

また、2009年4月からイタリア政府は自転車購入奨励金制度を開始した。実際に消費者からはかなりの反響があり、先頃、同政府は奨励金追加の措置を公表したばかりである。この奨励金制度が2008年に落ち込んだ同国自転車市場の回復のきっかけとなることが期待されており、2009年の伊市場動向に注視したい。

統計出所：イタリア二輪車工業会(ANCMA)

以 上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。